

## 研修歯科医の臨床研修に対するモチベーションを変化させる要因

大戸敬之<sup>1)</sup> 中山歩<sup>1)</sup> 岩下洋一朗<sup>2)</sup>  
松本祐子<sup>1)</sup> 吉田礼子<sup>1)</sup> 田口則宏<sup>2)</sup>

**抄録:**本研究は、研修歯科医の臨床研修に対するモチベーションを変化させる要因について、質的に解析を行った。平成27年度鹿児島大学医学部・歯学部附属病院研修歯科医23名を対象に、質問紙調査を実施し、その回答内容を質的帰納的に分析した。これにより、研修歯科医のモチベーションを変化させる要因として、『人間関係』、『治療』、『研修生活』、『日常生活』の4つが得られた。特に、モチベーションを変化させている要因としては、研修歯科医と指導歯科医との人間関係が影響していた。この結果より、より効果的な臨床研修プログラムの立案につながると考えられる。

**キーワード:** 研修歯科医 指導歯科医 モチベーション

### 緒言

職場におけるモチベーションを左右する因子については、医療専門職に限らず、様々な職業で報告されている<sup>1-3)</sup>。加えて、モチベーション低下によって起きる離職などの悪影響も多く知られている<sup>4-6)</sup>。

現在の日本の臨床研修制度は、医師・歯科医師のどちらにおいても、人格を涵養し、基本的な診療能力を身につけるものであると定められており、生涯研修の始まりとしても重要な役割を担っている<sup>7)</sup>。そのため、研修歯科医の研修に対するモチベーションを高くしておくことは、その後の歯科医師としての将来に大きく関わってくるものであると思われる。

この研修に対するモチベーションを左右する原因についての考察は、医科の研修医では報告があるものの<sup>8)</sup>、歯科においては、その原因について質的な手法を用いて分析した報告はない。そこで本研究では、よりよい研修体制や研修環境を整えるための一助となることを目的として、研修歯科医のモチベーションを変化させる要因について調査を行なった。

### 対象および方法

#### 1. 対象

平成27年度鹿児島大学医学部・歯学部附属病院研修歯科医の27名うち、地域の開業歯科医院に出向しているものを除く23名であった。うちわけは、大学病院単独型研修プログラム17名、大学病院および地域の開業歯科医院との複合型研修プログラム6名で

あった。男性は13名、女性は10名であった。また鹿児島大学卒業者は18名、それ以外が5名であった。

#### 2. 方法

対象者へのアンケート調査は、研修開始4か月後の平成27年8月末に実施した。調査は無記名にて行なった。アンケートの内容としては、「これまでの研修を振り返って、研修に対するモチベーションが向上(または低下)するのはどんな時でしたか、具体的に記入して下さい」とし、その理由等も記載できる自由記載形式とした(図1)。

#### 3. 分析方法

記載内容の分析には、質的帰納的研究として、意味内容の類似性による分類と命名を行なった<sup>9)</sup>。分析の手順は、それぞれのアンケート用紙の回答をまず十分に読み込んだ上で、書き文字の癖などによるバイアスの除去や分析の容易さのため電子データとして文字起こしを実施した。そして、文章の羅列となったデータを「朝一番の診療の時に、先生に強く注意されて落ち込んだ」といった一連の内容となっているセンテンス毎に分割した。そして、センテンスの内容が類似しているもの同士を同じグループとして分類した。分類には全体を通じての大分類と、向上・低下の要因毎の小分類があり、分類毎に命名を行なった。なお一連の分析には、共同研究者を含め3名が加わり、分類の過程や結果の妥当性について検討を行なった。

#### 4. 倫理的配慮

本研究はヘルシンキ宣言の精神を遵守し実施した。研究開始前に、研究代表者が研究対象者に対して、研

<sup>1)</sup> 鹿児島大学学術研究院医歯学域医学部・歯学部附属病院歯科総合診療部(主任:田口則宏教授)

<sup>2)</sup> 鹿児島大学学術研究院医歯学域歯学系歯学総合研究科健康科学専攻歯科医学教育実践学分野(主任:田口則宏教授)

<sup>1)</sup> Kagoshima University, Research and Education Assembly, Medical and Dental Sciences Area, Medical and Dental Hospital, General Dental Practices (Chief: Prof. Norihiro Taguchi) 8-35-1 Sukuragaoka, Kagoshima City, Kagoshima 890-8520, Japan.

<sup>2)</sup> Kagoshima University, Research and Education Assembly, Medical and Dental Sciences Area, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Health Research Course, Dental Education (Chief: Prof. Norihiro Taguchi)

研修医アンケート 提出期限: 8月 28日(金)

(1)以下の項目に○を記入してください。

プログラム A・B・C 男・女

出身大学  
鹿児島大学・その他

進路  
学院進学が決まっている・開業医に就職が決まっている  
大学院進学を希望しているが未定・開業医に就職を希望しているが未定  
その他( )

(2)これまでの研修を振り返って、研修に対するモチベーションが向上するのはどんな時でしたか。具体的に記入してください。

(3)これまでの研修を振り返って、研修に対するモチベーションが低下するのはどんな時でしたか。具体的に記入してください。

図 1 アンケート用紙

究の内容および参加の可否に関わらず臨床研修の成績とは一切関係の無いことを口頭で説明した。そして、同意を得られたものに対してのみ、調査およびデータの分析を行なった。データは個人が特定されないよう加工を行なった。

結 果

得られた大分類のグループは『人間関係』、『治療』、『研修生活』、『日常生活』の4つであった。大分類のグループを向上と低下にわけて、基になったセンテンスの一部を並べたのが表1である。

研修歯科医のモチベーションが向上した要因は全体で46個あげられた。大分類で見ると『人間関係』に関することが41%と最も多く、次いで『治療』に関することが37%、『研修生活』に関することが11%、『日常生活』が11%となった。『人間関係』の相手としては、「患者」が42%、「指導歯科医」が42%の同数で多く、「研修歯科医同士」は16%となった。『治療』に関しては、センテンス別に「治療がうまくいった時」が50%と最も多く、「治療を任せられた時」が

表 1 得られた分類および名前と基になったセンテンス

人間関係	向上	指導歯科医	指導歯科医に歯科医として成長したことを褒めてもらった時 指導歯科医に治療後の振り返りで、「ここは、～だから、こうしたほうがいい」[〇〇がよかった]などの確に指導してもらえた時 指導歯科医から改善点が明確で具体的な指導を受けた時
		患者	患者との関係が良好な時 患者さんに先生のおかげで、おかげさまで順調ですなどお褒めの言葉をかけてもらった時
		研修歯科医	研修歯科医同士でお互いの成長を発見し合えた時
	低下	指導歯科医	求める指導内容ではなかった時 言葉の選択を間違っているように感じた時
		患者	患者さんとうまくラポール形成できない時
		研修歯科医	周囲の研修歯科医のやる気が感じられない時
治療	向上	色々な治療を任せられた時 最初できなかった治療が回を重ねる毎にできるようになった時 治療がうまくいかなかったが、目標が設定できた時・励まされた時	
	低下	あまり手際よく治療を行うことができず、悔しい思いをした時 医療面接で患者の話をうまく聞けず、うまくまとめられない時 1度したミスをもう1度繰り返してしまった時	
研修生活	向上	自分の興味のある科の勉強をしている時 インプラントのハンズオンに参加した時 目標を定めた時 課題を見つけた時	
	低下	1つの大きな目標が一段落し(大学院試験)、具体的な目標がなくなった時 未作成書類が多い時(デスクワークが多い) 実績記録やポートフォリオが多い 治療以外のこと 入力や書類など煩雑な作業が多い時	
日常生活	向上	晴れの日と金曜日 車を買った時	
	低下	昼ごはんがおいしくなかった時 帰りが遅くなった時 体調が悪い時	

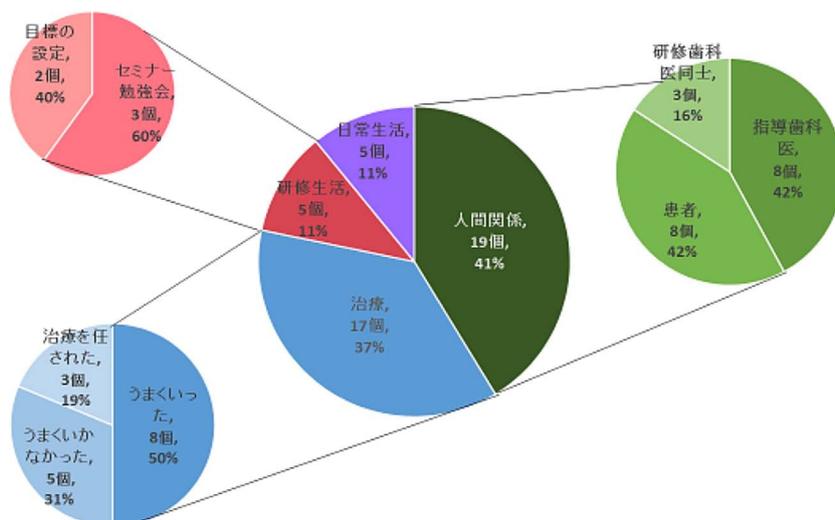


図 2 モチベーション向上の要因

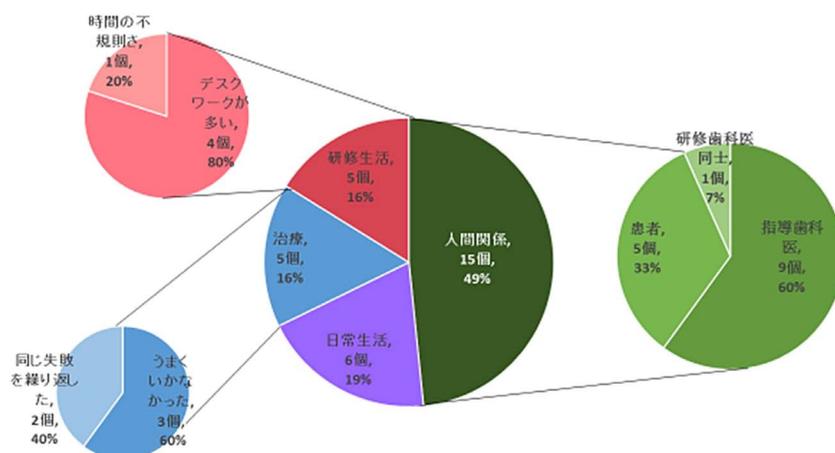


図 3 モチベーション低下の要因

31%，そして「治療がうまくいかなかった時」が19%でモチベーションが向上していた。『研修生活』については、「セミナーや勉強」が60%、「目標の設定」が40%であった（図2）。

一方、研修歯科医のモチベーションが低下した要因は全体で31個あげられた。向上と同様に『人間関係』が49%と最も多く、『日常生活』が19%、『治療』・『研修生活』が同数の16%であった。『人間関係』の相手としては、「指導歯科医」が60%、「患者」が33%、「研修歯科医同士」は7%であった。『日常生活』では、体調が悪い時、帰りが遅くなった時といった内容であった。『治療』では、「うまくいかなかった時」が60%、「同じ失敗を繰り返した時」が40%であった。『研修生活』では、「デスクワークが多い」が80%で、「時間の不規則さ」が20%であった（図3）。

### 考 察

研修歯科医のモチベーションを変化させる最大の要因は、『人間関係』であった。そして、モチベーションの向上と低下のどちらの場合においても、指導歯科医との関係の割合が最も高かった。これは、臨床研修の期間中に最も直接的に関係する時間が長いからであると考えられる。向上は、「褒められた」、「努力を認められた」、「励まされた」といったときにみられた。低下は、叱ることや怒ることのみで発生するわけではなく、「研修歯科医の求める指導内容ではなかった」、「言葉の選択を間違っているように感じた」といった研修歯科医が納得することのできない指導であった場合にモチベーションが低下する傾向があった。指導歯科医の指導は、『治療』の部分にも関係している。『治療』では、モチベーションが向上する要因として、治療がうまくいったというポジティブな因

子だけでなく、相反するうまくいかなかったというネガティブな因子も同様にモチベーションの向上につながる結果となっている。うまくいかなかった場合も、「今後の自分の課題としてとらえた」、「指導歯科医にも励まされた」といったことがセンテンスからあげられている。失敗したといったネガティブな事象について、研修歯科医はポジティブな事象よりもより深く省察することができるとの報告<sup>10)</sup>もあり、できごとに対する適切な振り返りと、指導歯科医との関係性が重要となってくる。加えて、振り返りについては、『研修生活』におけるモチベーション低下要因の一つである、デスクワークが多いということにも関係している。デスクワークの内容としては、カルテ記載といった治療に関するのではなく、ポートフォリオやオンライン歯科臨床研修評価システム (DEBUT)<sup>11)</sup>などの臨床研修を行なっていく上での課題が主なものである。ポートフォリオには能力を高めるといったエビデンス<sup>12)</sup>もあり、学習効果が認められているものであるが、宿題のように行なっていくだけでは意味をなさずに、研修歯科医のモチベーションを下げるのみになってしまう。ポートフォリオによる振り返りが自己の成長にどのように役に立つのか、振り返りがなぜ重要なのかといった、振り返りを行うことの意味をしっかりと研修歯科医に対して説明することが求められている。

心理学分野におけるモチベーションには、評価や賞罰・強制といった外的要因によって動機付けられる外発的動機付けと、内面に湧き上がる自己の興味を満足させるためや、達成感を得るために行う内発的動機付けの二つに大別される<sup>13)</sup>。外発的動機付けは一時的なものであり、継続的な成長を促す内発的動機付けがより効果的であるとされている。また外発的動機付けも、自己の価値観などと一致している場合には、自律性の高まった外発的動機付けであり、内発的動機付けと同様の効果があるとされる<sup>14)</sup>。一方で、期限が区切られたものや、ミニマムリクワイアメントが設定された強制された外発的動機付けは最も自律性の低い外発的動機付けとされ、特に効果が低い<sup>15)</sup>。これらのことは、今回の結果にも見られる。デスクワークの多さという表現から、強制されている課題としての認識の強いものでは、外発的動機付けの中でも自律性の低いものであった。一方で、適切なアドバイスを得ることや励まされるという言語報酬をもらうものは、外発的動機付けであっても自律性の高いものであると考えられる。これは、今回の結果でも指導歯科医からの励ましや、適切な指導によってモチベーションが向上したことに表れている。このように臨床研修に対する研修歯科医のモチベーションについても心理学的に用いられているモチベーションと同様のことが確認された。

なお、本研究は鹿児島大学医学部・歯学部附属病院の研修歯科医の単年度、一時点でのアンケート調査のみを対象としており、より結果の妥当性を高めるためにも、他施設や多年度での調査を実施することや、研修歯科医に対するフォローアップインタビューが必要である。

## 結 論

本研究で、研修歯科医のモチベーションを変化させる『人間関係』、『治療』、『研修生活』、『日常生活』という4つの要因が明らかとなった。この結果は、指導歯科医側への指導など今後の臨床研修プログラムの改善などに役立てることができると考えられる。

## 謝 辞

研修歯科医の中で中心となって研究に携わった阿多美幸先生、下田佳佑先生、そして研究に協力してくださった平成27年度鹿児島大学医学部・歯学部附属病院研修歯科医の皆様は厚く御礼申し上げます。

利益相反の開示：本研究に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

## 文 献

- 1) 野々原慎治, 戸梶重紀彦. ワークモチベーションの規定要因について：国立大学事務官の職位を中心とした比較検討. 広島大学マネジメント研究 2004 ; 4 : 113-125.
- 2) 高橋桂子, 濱岡真未, 勝沼真恵. 新潟市内公立小中学校教員のモチベーション要因、ストレス要因とワーク・ライフ・コンフリクト. 教育実践総合研究 2009 ; 8 : 49-60.
- 3) 堀田和司, 奥野純子, 戸村成男, 柳 久子. 介護老人保健施設に勤務する介護職員の「仕事へのモチベーション」を促進する要因. 日本公衆衛生雑誌 2009 ; 56 : 863-874.
- 4) 高木 亮, 田中宏二. 教師の職業ストレスに関する研究：教師の職業ストレスとバーンアウトの関係を中心に. 教育心理学研究 2003 ; 51 : 165-174.
- 5) 須藤絢子. 手術室看護師のストレスとモチベーションの関連：国立大学病院と公立大学病院の比較. 北海学園大学大学院経営学研究科研究論集 2016 ; 14 : 29-40.
- 6) 岩田幸代, 植村真美, 許斐正啓, 永井弥生, 東山勝彦. 医療専門職のモチベーションとその規定因に関する一考察：職種間比較分析を中心に. 高大ビジネスレビュー 2013 ; 2 : 225-235.
- 7) 厚生労働省. 歯科医師臨床研修の到達目標. <http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/shikarinsyo/gaiyou/kanren/sekou/toutatsu.html> (最終アクセス日 2016. 2. 11).
- 8) 堀田知光. 医師臨床研修制度の評価と医師のキャリアパスの動向に関する調査研究：平成24年度総括・分担研究報告書：厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業. 東京：厚生労働省；2013. 310.
- 9) 舟島なをみ. 質的研究への挑戦. 第2版. 東京：医学書院；2007. 121-122.
- 10) 大林泰二, 大戸敬之, 長谷由紀子, 梶谷佳世, 田中良

- 治, 他. 臨床研修の中間点における研修歯科医の振り返りの様相についての検討. 広島大学歯学雑誌 2014; 46: 1-5.
- 11) 大学病院医療情報ネットワーク. DEBUT (デビュー)-オンライン歯科臨床研修評価システム <http://debut.umin.ac.jp/> (最終アクセス日 2016. 2. 11).
- 12) 佐藤敏子, 山名豊美, 中川 武. ポートフォリオ学習における学習者の変容: 自律した学習者を目指して. つくば国際大学研究紀要 2004; 10: 31-48.
- 13) 長沼君主. 自律性と関連性からみた内発的動機づけ研究. 上淵寿編. 動機づけ研究の最前線. 初版. 京都: 北大路書房; 2004. 30-60.
- 14) 宮本美沙子, 奈須正裕. 達成動機の理論と展開一統・達成動機の心理学. 初版. 東京: 金子書房; 1995. 217-227.
- 15) 大宮俊恵, 松田文子. 児童の内発的動機づけに及ぼす教師の外的強化の効果. 教育心理学研究 1987; 35: 1-8.

#### 著者への連絡先

大戸 敬之  
〒 890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35-1  
鹿児島大学学術研究院医歯学域医学部・歯学部附属病院歯科  
総合診療部  
TEL & FAX 099-275-6049  
E-mail : toto@dent.kagoshima-u.ac.jp

---

## Factors affecting motivation to clinical training of dental trainees

Takayuki Oto<sup>1)</sup>, Ayumi Nakayama<sup>1)</sup>, Yoichiro Iwashita<sup>2)</sup>,  
Yuko Matsumoto<sup>1)</sup>, Reiko Yoshida<sup>1)</sup> and Norihiro Taguchi<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>Kagoshima University, Research and Education Assembly, Medical and Dental Sciences Area,  
Medical and Dental Hospital, General Dental Practices

<sup>2)</sup>Kagoshima University, Research and Education Assembly, Medical and Dental Sciences Area,  
Graduate School of Medical and Dental Sciences, Health Research Course, Dental Education

**Abstract :** As part of the present study, factors that affect dental trainees' motivation towards clinical training were qualitatively analysed. In 2015, Kagoshima University Medical and Dental Hospital conducted a questionnaire survey on 23 dental trainees, which it analysed in a qualitative and inductive way. The results revealed four factors that affect motivation: human relations, dental treatment, clinical training style, and daily living. In particular, the dental trainee's relationship with their dental clinical instructor was seen as a significant influencing factor. It is anticipated that these results will lead to the planning of a more effective clinical training program in the future.

**Key words :** dental trainee, dental clinical instructor, motivation